

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目社会分野 2024年度以降 人文・社会科学系領域		6. DPコード／分野コ ード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) マンガと社会 (英文名) Manga and Society				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) マンガを活用した地域の振興と発展 (英文名) Promotion and Development of the Region using Manga				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 岩崎 保道 (ローマ字) IWASAKI, Yasumichi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	マンガ(漫画、まんが) コミック 文化政策 地域振興 Manga, Comic, Cultural Policy, Regional Promotion				
21. 授業概要	<p>近年、マンガは文化や産業の振興に一定の役割を果たすなど、社会的に影響を持つようになり、海外にもマンガ文化が発信され注目されています。このような背景の下、マンガに関わる政策的な取り組みや、マンガを地域の活性化に活用するなど、多種多様な活動が盛んに行われています。</p> <p>一方、マンガに関わる教育研究が深化しており、学術研究の分野を築いています。当授業は、このような身近な存在であるマンガの歴史的な発展をはじめ、文化・産業面での動向や地域振興への活用状況などを解説します。また、高知県が多くのマンガ家を輩出してきたことや、マンガに関わる取り組みの先進県であることを踏まえ、四国4県のマンガ事情を紹介します。</p> <p>以上の趣旨により、具体的なテーマとして「マンガの歴史」「マンガを活用した地域振興」「マンガに関わる学術研究」「マンガ産業の動向」「高知県、愛媛県、香川県、徳島県に関わるマンガ家」などを取り上げます。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	(1) マンガの歴史的発展や社会的役割を理解する (2) マンガを活用した地域振興の状況を理解する (3) マンガの学術的成果を把握する (4) 高知県、愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情を把握する				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	(1) マンガの歴史的発展や社会的役割が理解できるようになる (2) マンガを活用した地域振興の状況が理解できるようになる (3) 高知県、愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情が説明できるようになる				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)	
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)	
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1回 ガイダンス (本講義の概要説明)</p> <p>第2回 マンガの歴史(1) (江戸時代から大正時代までのマンガに関わる歴史)</p> <p>第3回 マンガの歴史(2) (昭和時代以降のマンガに関わる動向について)</p> <p>第4回 文化政策とマンガ (国や地方都市におけるマンガに関わる文化政策)</p> <p>第5回 マンガ・アニメを活用した地域振興(1)イベント (マンガ・アニメに関わるイベントやその効果について)</p> <p>第6回 マンガ・アニメを活用した地域振興(2)コンテンツツーリズム (コンテンツツーリズムの動向や実例の紹介)</p> <p>第7回 マンガに関わる施設 (マンガに関わる施設の目的や機能について)</p> <p>第8回 マンガを活用した地域振興に関するレポート (受講生がマンガに関わる地域振興等の状況を調査して報告する)</p> <p>第9回 マンガの研究 (マンガに関わる研究機関や研究成果)</p> <p>第10回 マンガを教育する大学 (マンガに関わる大学教育の紹介)</p> <p>第11回 マンガ産業の動向 (コミック等の売り上げの推移や、業界の課題など)</p> <p>第12回 高知県のマンガ事情 (高知県出身のマンガ家や作品について)</p> <p>第13回 愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情 (各県出身のマンガ家や作品について)</p> <p>第14回 マンガのチカラと未来 (マンガの利活用とコミック工学)</p> <p>第15回 受講生の発表 (マンガと社会に関するもの)</p>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>受講生に対しては、関連資料の収集及びその予備学習を望みます。また、毎回の授業内容を復習し、理解を深めておく必要があります。具体的には、各回の授業テーマに則した状況調査や分析など、週に4時間程度の考察が求められます。また、関心を持った事項を自主的に調べるなど積極的な学習</p>



	態度で学んでください。					
28. 成績評価の方法と基準	<p>評価基準: 下記の平常点及びレポート試験が達成目標に達しているか総合的に判断します。</p> <p>評価方法: 授業に対する積極性や小レポート(50点)、レポート試験(50点)とします。定期試験に代えてレポート試験を課します。単位取得条件として、合計60点以上を取得する必要があります。なお、モジュール内の学修が出席に相当します。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限: あり・</p> <p>香川大学90名・徳島大学90名・鳴門教育大学10名・高知大学280名・愛媛大学90名</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>【コメント】</p> <p>マンガが社会に浸透していることを背景として、マンガの社会的な役割が見直されています。例えば、文化や地域の振興に役立てられ公益的な側面でも取り入れられるようになりました。また、マンガが文化政策のなかに取り入れられていたり、イベントなどの地域振興にマンガが活用されています。マンガは私たちに楽しみや喜び、時には学びや癒しをもたらしてくれる存在であり、日常に溶け込んでいるものと言えるでしょう。</p> <p>マンガが果たす役割などを様々な観点で学ぶことは、マンガの存在意義や在り方を確認することを通じて、豊かな社会環境づくりに寄与する考察になると考えます。このように、マンガは多様な側面を持っていますが、ご存じない事柄があるかもしれません。その意味において、この授業を通じて、マンガに関わる新たな知見や学びを得ることができると思います。</p> <p>マンガの社会的な在り方に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。以上のことから、マンガに関わる基礎的な知識や近年の動向について、事前学習を踏まえ自分の考えを整理しておくことを望みます。私たちの日常の中で、マンガが社会にどのように関わり、影響しているのか授業を通じて多く学んでいただきたいです。この分野に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。なお、当授業は専門知識を持たない方にも分かりやすく説明します。</p> <p>【注意点】</p> <p>授業方法はビデオ(または課題の提示)を主として教科書を使いながら授業を進めていきます。また、当授業では学生の疑問を受け付けて、それに対する回答を行うことにより理解を高めます。各回の授業において求める小レポート等の提出は必須であり、対面式授業の出席に該当します。そのため、(15回の授業のうち)10回以上の提出が確認できない場合、単位取得の条件を満たさないことになるので注意してください。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	『マンガと社会』		<input checked="" type="checkbox"/>	
		ISBN	4910284168	著者名		岩崎保道
		出版社	高知新聞総合印刷	出版年		2022年
		金額	2,200円	備考		紙媒体(2026年に増刷)と電子書籍の両方で販売(いずれかを購入)
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			<input checked="" type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		

	出版社	出版年			
		金額		備考	
	参考書2	書名			
		ISBN		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	
	参考書3	書名			
		ISBN		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	
	34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/			<input checked="" type="checkbox"/>
	35. パソコン必要度	必要	36. 資格等/本科目受講が必要となる資格等/資格取得該当科目	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授業公開日程				<input checked="" type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	あらかじめ電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて予約すること 岩崎研究室(高知大学 教育学部1号館5階)		<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用メール	自大学 学生向け	電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて連絡すること		<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて連絡すること		<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験について	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応	授業動画は全て字幕付き			<input checked="" type="checkbox"/>	
42. その他/備考	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目自然分野 2024年度以降 視野を広げる科目／ 自然科学系領域		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 体験的に学ぶ生成AI (英文名) Experimental Learning of Generative AIs				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) とにかく生成AIを使ってみよう! (英文名) Let's Try Generative AIs				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必修区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	なし	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	生成AI, 情報リテラシー, ChatGPT Generative AI, Information Literacy, ChatGPT				
21. 授業概要	ChatGPTに代表される生成AIをとにかく使ってみることで、その性能だけでなく現時点での限界や注意点を体験的に学習します。日々進化する生成AIに対応するため、最新の情報を自ら取得して活用する経験を積みます。それに伴い、情報の正確さや信憑性について理解を深めます。また、生成AIの基本的な仕組みや、生成AIを使用する際の注意点を学びます。生成AIの理解や活用に役立つ情報と、各自が取り組んだ活動の成果を受講生間で共有し、生成AIに関する知識を広げます。これらの経験をもとに、生成AIを自分のために活用できるようになることを目指します。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	生成AIの利用を通じて生成AIへの理解を深め、将来にわたって主体的に生成AIを利活用できる能力を身に付けることがこの授業の目的です。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	<ol style="list-style-type: none"> 生成AIの実践的な活用方法を調べ、実践することができる。 情報の正確さや信憑性を判断する際に気を付けるべき点を3つ以上挙げられる。 ChatGPTの基本的な仕組みを踏まえ、それ由来する制限や限界を3つ以上挙げられる。 ChatGPTの基本的な仕組みに由来する制限や限界以外に、生成AIを利用する際に注意すべき点を3つ以上挙げられる。 自分の必要・興味に応じて、生成AIを活用出来る。 生成AIが生活や働き方に及ぼす影響について、自分の言葉で語る事ができる。 <p>※授業開講時点で利用可能な生成AIサービスの状況により、一部変更になる可能性があります。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)	
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)	
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス 2. 文章生成AIの仕組みを知る 3. 文章生成AIを活用する 4. 画像生成AIを利用する 5. 生成AIに関する注意事項を確認する 6. 公開されている試験問題を解かせてみる 7. 応用課題に取り組む 8. 進化する生成AIとその行く末を考える <p>【学習の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で行うべきこと、それに関連する説明、参考情報をまとめた資料に目を通し、必須とされている参考情報を確認します。 ・各回(毎回ではありません)には、選択式の知識確認問題が用意されます。(何度回答してもOK&最高得点で評価します。) ・各回には、生成AIを利用する課題を設けます。各自情報収集の上、課題に取り組んでください。 ・提出された各回の課題は、提出後切後に受講者間で共有されます。他の受講生の提出課題をすることで知識を広げます。 ・各回では、課題とは別に学習の振り返りの提出を求めます。こちらは受講者間で共有されることはありません。受講者間で共有されたそれまでの回の提出課題に対するコメントを求められることがあります。 ・応用課題では、各自が興味・必要に応じてテーマを設定して独自に生成AIを活用し、そのプロセスと結果をまとめたレポートを提出することが求められます。このレポートも受講者間で共有されます。 ・授業の開講期間を通じて、生成AIに関連する情報を見つけ、受講者間で共有できるよう提供することが求められます。(フォームへの投稿の形での情報共有を想定しています。) ・最終回には選択式の知識確認問題が課せられます。こちらは1回のみ受験可能です。 ・期末レポートとして、これまでの学習の振り返りと、生成AIもたらす影響についての自分の考えをまとめることが求められます。
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>オンデマンド形式の授業であるため授業時間内／外の境界はあいまいですが、生成AIを用いた課題への取り組みやそのための情報収集が、授業時間外の学習として想定されています。また、応用課題と期末レポートでは通常の授業回よりも多く時間の学習が授業外で求められます。これらを平均すると、1授業回あたり2～4時間程度の授業時間外学習が期待されます。</p>

28. 成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・選択式の知識確認問題 10% ・各回の課題 20% ・各回の振り返り 20% ・生成AIに関する情報の提供 10% ・応用課題のレポート 15% ・期末レポート 25% <p>単位の修得には60点以上の成績が必要です。各回の学修活動が出席に相当します。</p>				☑																	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			☑																	
	連携大学学生向け	なし																				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学_10名・徳島大学_10名・鳴門教育大学_5名・高知大学_10名・愛媛大学_10名</p>				☑																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>【担当教員からのメッセージ】</p> <p>ChatGPTに象徴される生成AIは、その驚異的な性能から多くの注目を集めるとともに、様々な場面での活用が進んでいます。この授業では、膨大な投資と活発な研究に支えられて日々進化を続けている生成AIに、望む望まないに関わらずこの先付き合い合っていくことが求められるであろう皆さんが、とにかく生成AIを使ってみてその性能を実感し、生成AIをこれから活用していくための知識と経験を身に付けると共に、生成AIが社会や皆さんの生活に及ぼしていくであろう影響を、批判的な視点も交えつつ考えていくきっかけになればと思います。</p> <p>【履修希望学生に求めるもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIを知ろうとする知的好奇心、せっかくなので使ってみようという積極的な姿勢 ・分からないことをネット、書籍、論文等により、調べていくこと ・自分の調べたこと、作ったものを他の受講者と共有する寛容な態度 ・ChatGPTのアカウントとGoogleアカウントの2つを使います。持っていない方は作成を求めます。(有料版ライセンスは必要ありません。) <p>【授業に関する注意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「便利なプロンプトを沢山教えてもらえる」という期待には沿えません。自分で調べてもらいます。 ・大部分の課題において生成AIを利用した作成を認めますが、利用した生成AIやプロンプトに関する情報等の記載を求めます。 ・毎回の課題は、基本的に提出後切後に受講生間で共有します。ご了承ください。その際に添える作者名は、各自が希望したもの(匿名を含む)を使用します。 ・今後の生成AIのサービス提供状況等に応じて、授業計画の一部が変更される可能性があります。 ・受講生の提出物は、生成AIに入力して分析することを計画しています。そのことへの同意については授業内で調査しますが、ご協力をお願いします。 				☑																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ISBN</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☑
教科書1	書名																					
	ISBN		著者名																			
	出版社		出版年																			
	金額		備考																			

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	生成AIで世界はこう変わる			☑
		ISBN	9784815622978	著者名	今井 翔太	
		出版社	SBクリエイティブ	出版年	2024	
		金額	990円(税込み)	備考		
	参考書2	書名	エンジニアなら知っておきたい生成AIのキホン			
		ISBN	9784295021049	著者名	梅田 弘之	
		出版社	インプレス	出版年	2025	
		金額	2,640円(税込み)	備考		
	参考書3	書名	ゼロからわかる 生成AI法律入門			
		ISBN	9784022519382	著者名	増田雅史、輪千浩平 編著	
		出版社	朝日新聞出版	出版年	2023	
		金額	1760円(税込み)	備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☑	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		☑	
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			☑	
	連携大学 学生向け	なし			☑	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	moodle上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。他の受講生と共有することを望まない質問は、moodle上に掲載するアドレス宛でのメールで受け付けます。			☑	
	連携大学 学生向け	moodle上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。他の受講生と共有することを望まない質問は、moodle上に掲載するアドレス宛でのメールで受け付けます。			☑	
40. 教員の実務経験	なし				☑	
41. バリアフリー対応	教員が提供する動画には、テキスト版を添える。				☑	
42. その他／備考	moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp				☑	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目 キャリア形成支援分野 2024年度以降 キャリア形成		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) アクティブラーニング入門 (英文名) Learning Methods of Active Learners				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 体験する教室 (英文名) Experience in Classroom				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必修区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大 学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	参加型授業, アイスブレイキング, 反転授業 Active Learning, Ice breaking, Flipped Classroom				
21. 授業概要	最新の小・中学校(2019年度告示), および, 高等学校(2020年度告示)の学習指導要領には, 知識理 解の質を高め資質・能力を育むため, 主体的・対話的で深い学びというキーワードでアクティブラーニ ングが取り入れられています。この授業では, いくつかのアクティブラーニングのパターンを教材化したも のです。この教材を受講者がアクティブ(能動的)に学んでアクティブラーナーとなり, 将来教員になって, あるいは就職した後教育係となって, 子供の親となって, アクティブラーニングの実践ができるようにな ることを目指しています。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	・学習者が主体的に学ぶとはどういうことかわかる。 ・学習者が主体的に学ぶためにどのようなサポートが必要かわかる。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	アクティブラーニングを実施する上で, どのような準備(環境整備)が必要か説明できる。 失敗しないグループワークのために, 必要なことが3つ以上言える。 学習者の参加を促すために, 注意を払わなければならないこと(教員の視点)が3つ言える。 試験紙法の手順が説明できる。 PBLが効果的な授業と, 試験紙法が効果的な授業のタイプ分けができる。				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1回 初回の授業ですべきこと 第2回 授業の最初にすべきこと 第3回 学生からのフィードバックを得る方法 第4回 失敗しないグループワークのために 第5回 勉強の仕方を教える 第6回 反転授業をやってみよう 第7回 プレゼンテーションのコツ 第8回 ICTを使う 期末試験 補助教材 オンライン授業での工夫</p> <p>【授業及び学習の方法】 1～5の手順で学修を進めてください。1～4は毎回の授業に用意されています。</p> <p>1.講義テキストを読み内容を理解する。</p> <p>2.講義テキストの内容を、以下の(i)～(iii)の要領で、自分なりの言葉でノートにまとめる。 (i)テキストの各段落を、1文で要約する。 (ii)テキストのまとまりごとに、その部分で著者が最も伝えたいことを1文に要約する。 (iii)1文にまとめきれなかった内容を、自由な形式で補足する。</p> <p>3.レポートの作成 2でノートにまとめた(i),(ii)の要約文から、毎回の指示に沿って抜粋したものをmoodleに提出する。 レポートは提出後にチェックされます。再提出を求められる場合があります。</p> <p>4.章末テスト 2回まで受験可能です。</p> <p>5.期末試験 1回だけ受験が可能です。</p>	☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	非同期型(オンデマンド)のオンライン授業のため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。 eラーニングシステム moodle上のコンテンツを確認した上で、提示された活動に取り組んでもらいます。	☑
28. 成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポート 40% <li style="padding-left: 20px;">レポートは全て提出すること。 ・毎回のレポート追加点 10% <li style="padding-left: 20px;">Goodの評価を受けている場合の加点 	☑

	<ul style="list-style-type: none"> ・章末テスト 30% 十分な予習時間をとり、間違えずに短時間で全問正解すること。誤答すると減点されます。2回受験が可能で、2回受験した場合は平均点が成績として加算されます。 ・期末試験 20% ・単位修得のためには、全ての課題を終えた上で合計60点以上の点数を取得する必要があります。 					
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学15名・徳島大学15名・鳴門教育大学10名・高知大学15名・愛媛大学15名				<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>各章の章末テストに、標準的なスケジュール(解答期限)を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため、レポート締切も同時期と考えて下さい。毎回のレポートを全て提出し、章末テストや期末試験を受験すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 締切に遅れても、必ず毎回のレポートを提出し、章末テストを受験してください。ただし、期末試験受験期限以降の評価は行いません。 * 章末テストは2回受験可能で、2回受験した場合は平均点を成績とします。1回で高得点を得た場合、2回目を受験する必要はありません。 * 標準スケジュールで示した各回の締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートのまとめ方と評価基準を設定していますので、「受講の仕方」をよく読んで下さい。指示されたまとめ方に沿っていない場合、合格に満たない場合は再提出が必要となります。 * 生成AIを利用してノートやレポートを作成することは禁止します。 				<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		

34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/		<input checked="" type="checkbox"/>
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受 講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目 なし	<input checked="" type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授 業公開日程			<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相 談場所／学生開示用 メール	自大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。	<input checked="" type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験 について	なし		<input checked="" type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応	講義テキストはPDFとなっています。参考動画が1本ありますが、字幕が加えられています。		<input checked="" type="checkbox"/>
42. その他／備考	moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp		<input checked="" type="checkbox"/>

2023年2月改訂